

## 大規模水害時における社会的脆弱性の空間的分析-東京都葛飾区を事例に

### Spatial Analysis of Social Vulnerability to large-scale flood: a case study on the Katsushika Ward, Tokyo

\*連 暁<sup>1</sup>

\*LIAN XIAO<sup>1</sup>

1. 筑波大学

1. University of Tsukuba

地球温暖化に伴う水害の規模と頻度の増加が指摘されている。一方、高齢化や人口構造の変化、適応策の欠如等による水害の脆弱性が増加されている。水害の脆弱性を低減し、適応能力を増加する必要がある。社会的脆弱性を評価することは水害の脆弱性を低減し、適応能力を増加するためには重要なステップである。

本研究では、MOVEフレームワーク（災害脆弱性評価フレームワーク）を参考にして、社会的脆弱性を曝露度、感受性、対応能力という三つの側面から分析する。具体的には14の指標で社会的脆弱性を評価する指標体系を構築し、情報エントロピー法と地理情報システム（GIS）を用いて、東京都葛飾区の水害の社会的脆弱性の空間的分布を明らかにする。

キーワード：GIS、大規模水害、社会的脆弱性

Keywords: GIS, large-scale flood, Social Vulnerability